

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



しらかば北

発行責任者
井上文夫

2023年 新春



2023年初日の出 つくし野 中川撮る



日本共産党委員長
衆議院議員
志位 和夫

新年おめでとうございます。

新たな100年のスタートの年。統一地方選挙勝利と強く大きな日本共産党をつくるために元氣いっぱいがんばります。昨年11月のアジア政党国際会議で私は、戦争の心配のないアジアを築くために排他的でない包摂的な平和の枠組みをつくらうと提案し、総意で採択された総会決議は「ブロック政治を回避し「競争より協力を」と宣言しました。

軍事で互いの垣根を高くするのではなく、対話と協力の平和の枠組をつくる——これがアジアの平和の流れです。

大軍拡・増徴で戦争国家へ突き進む岸田自公政権は、アジアの大逆流です。100年にわたって反戦・平和をつらぬく党の出番の年です。

明けましておめでとうございます。昨年は「しらかば北」をご愛読いただきまして、まことに有り難うございました。今年もよろしくお願いたします。

昨年12月下旬のテレビ朝日「徹子の部屋」に出演したタモリの言葉が話題になっています。

徹子「来年はどんな年になるんですかね。『タモリ』新しい戦前になるんじゃないでしょうかね。このタモリの言葉にぎくりとしました。タモリは

平和と希望の年に 後援会長 井上文夫

「その後には戦争が待っている」と言いたかったのではと思いました。リアルで真実があります。

もう戦争は「免」です。「憲法9条を守れ」「大軍拡反対」の声を大きくして、一緒に平和と希望があふれる年にしていきたいです。また、今年是我孫子市議会議員選挙があります。日本共産党の現有2議席

を引き続き確保して、皆さまの要求実現のために頑張りたいと思います。いっそうのご支援・ご協力をよろしくお願致します。



我孫子市議会議員
野村 貞夫

あけましておめでとうございます。本年11月には市議会議員の改選を迎えます。この間待ちに待った我孫子駅のホームからのエレベーターが始動し、6月までに4機全てが完成します。

新年を共に迎えしバラ一輪霜深き朝を凛として咲く
根戸の森行けば菜園広がりて土のにおいと菊花に思ふ
斎藤とよ子

さらにホームドア設置の工事も続いて行われます。給食費の全額無償化については、市と共に県も18歳以下の第3子以降の子どもがいる家庭に無償とし、さらに市ではその他の子どもも全員に、千円の補助をしました。

これは皆さんの運動とともに、私も議会で要求をして前進しました。また全国110を超える自治体が行っている補聴器への補助を求めましたが、市は実態調査を行うとしています。

「補聴器の補助を求める会」の皆さんと一緒に運動を進め実現させたいと思います。また、手賀沼を擁し北の鎌倉と呼ばれた、古くからの文学・歴史の地であることなどを活かした我孫子ならではの施設が必要で

老後のくらしにおいても介護施設の拡充や、歩きやすい道路の整備等「人生100年時代」にふさわしい街を皆さんと一緒につくっていきましよう。

花火

クラウゼヴィツの大著『戦争論』に、「戦争は政治の結果」というテーゼがある。核大国とミサイル開発国に隣接しながら、長きにわたってそれらとの外交をサボってきたわが国の政治は今、「防衛力強化」を叫んで、戦後最悪の結果に向けて舵を切ったと言える▼ウクライナ戦争をテコに、「西側の一員」面をして、「わが国の防衛をNATO並みに」と表明して以来、その財源に問題を掲りかえている。

一方、石垣島や与那国島では、すでにミサイル防衛基地が完成間近という▼戦前戦中は国家がメディアを完全に掌握して、国民を侵略戦争に駆り立てた。同時に、国民もまた熱狂して全国で戦勝祝賀の集いや行進を催し、反戦を記事にした新聞の不買運動をしたり、廃刊を叫んだりした。現代では、安倍政権のメディア攻撃が、菅前首相の放送会社幹部を招いたパンケーキ会食会を引き継がれた▼作家の半藤一利は、日本人がなりやすい「熱狂」に警鐘を鳴らしていた。かつて、大本営発表に、国民は「血湧き、肉踊らせ」ていたからだ▼さあ今こそ、反戦平和を貫く「しんぶん赤旗」の価値が光る時だ。(龍)

1月10日 我孫子駅北口で早朝宣伝



1月10日 我孫子駅北口での宣伝活動

皆さん、今年こそ、なんとかよいお年にと誰もが願って新年を迎えたいと思います。昨年からの岸田首相の政治は独断・専行・無責任。大臣を次々と4人交代させ、「任命責任は重い」と言った岸田さん、何か責任を取りましたか。「新5か年計画」とかで大軍備増強・大増税、くらし・いのちを削る改

悪。岸田さん「勝手に決めるな」と大声を上げ続ける1年になりそうです。

4月県議選、11月市議選、市民のくらしといのちに直結する選挙の年です。

今年の最大の課題は、軍備増強と増税、国民の負担増と戦禍への途を許すか否かの選択です。

憲法を無視、国会も無視、世論にも耳を貸さず「専守防衛」を投げ出し、敵基地攻撃能力(先制攻撃)のための軍備。「自分の国は自分達で守る」自

衛の枠を超えて、集団的自衛権の下でアメリカのはじめの戦争に自動的に参戦する、自国外での戦争準備です。「敵基地」にちかく、アメリカ軍との自衛隊の軍備の増強は、戦争への途でありません。

ロケットを撃たせない平和外交こそ進めるべきです。

(台田 中村)

平和の集い
我孫子から
平和を願う

我孫子市は2005年から市立中学校6校12名の生徒を広島や長崎に派遣しています。



つくし野 吉田さんの作品



12月4日けやきプラザで開催された「平和の集い」で昨年8月広島に派遣された中学生による報告会が開かれました。

平和記念資料館を訪ね、被爆体験の話や聞き、言葉にならないほどの衝撃を受けたこと。改めて平和の大切さ、平和な未来を創るため伝え続ける活動をしていくこと。などそれぞれの思い・決意が語られました。

我孫子市では、派遣中学生が講師となって小学6年生に、広島・長崎の経験と平和への願いを伝える「リレー講座」が続けられています。

「平和の集い」第2部では我孫子中学校演劇部による『輝けいのちーヒロシマの地下室からー』が演じられました。原爆が炸裂したその日、地下室に避難していた身ごもった女性を助けて、気遣う人たち。緊迫した中でやがて出産します。新しい命の誕生です。その感動と喜びが伝わる演劇でした。(江)

この人に聞く
中島喜美枝さん(1)



並木8丁目にお住まいの中島喜美枝さんに戦中・戦後の波乱な人生をお聞きしました。中島さんは昭和11(1936)年のお生まれで現在86歳です。

東京の下町、町屋に住んでいました。昭和20年3月10日の東京大空襲。直接の被害はなかったが、空襲で真っ赤に焼けた空をB29の隊列がゆうゆうと帰って行った情景を鮮明に覚えていてるそうです。

疎開で父の実家、北海道の芦別に移りました。芦別は当時開墾60年ぐらいの街で、鉱山鉄道で行くと三井、三菱などの炭鉱があり、人口7万ほどの町でした。実家は酒や味噌の麹をつくる麹屋でした。

戦争が終わって、5年生の時に一度東京(足立区)に戻りましたが、中学生の時再び芦別に戻りました。芦別の中学校では、「くにのあゆみ」、「憲法の話」、「新しい民主主義の話」を学びました。自由な雰囲気は教育はこの中学時代の3年間くらいだけだったと思います。

そして中学時代、家にあつた漱石から鶴外、江戸川乱歩と手当たり次第読んだそうです。自分で購入した本では、志賀直哉や三木清に共鳴したとのこと、雑誌はリーダーズダイジェストを購読してました。

高校では図書館で当時話題のカミュやカフカを読みながら、誰も頁をめくった形跡のない「マルクス・エンゲルス全集」に挑戦し、独りで判らないことも多く、中島さんは先生に読書会をつくって下さいと提案しましたが、校長から許可が出なかったと諦めました。

文芸部・新聞部・美術部に属し、自校外の空知管内の友人が多く、後々までもお付き合いが続いたりしたそうです。

卒業後の進路については、東京に行きたい一心で女子美術大学に入学しました。東京では自由気ままな生活ある生活でしたが、人生で一度きりの大失恋をし、一旦芦別に戻り、その後経理学校へ入行ってもいいと言われ、代々木の経理学校へ通ったそうです。

そんな活動的な暮らしの中で1959年、労働運動で活動していた大学職員と結婚しました。(つづく)